

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 名古屋市立汐路中学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

〒467-0006

名古屋市瑞穂区御蓼町4の16

E-mail : shioji-j@nagoya-c.ed.jp

Website : www.shioji-j.nagoya-c.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 242名 女子 204名 合計 446名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力を育む」を活動テーマとして、ESDを福祉に対しての実践力を養う機会と捉え、ESDの実践を通して、誰もが過ごしやすい社会をつくっていくことの大切さを知り、他者を思いやり協働して生きる力の育成を目標とした。

具体的には、1年生では福祉教育を柱に、①車椅子に係わる学習、②高齢者に係る学習、③視覚障害者に係る学習、2年生では、環境教育を柱に、④環境やエネルギーに係わる学習を行った。

### ① 車椅子に係わる学習

車椅子を使用している方を講師として招き講演を聴いた後、車椅子を使って、校内を巡る体験学習を行った。生徒は車椅子に乗る役や介助する役を交代で行い、自分が生活をしている場所の中に、車椅子で生活する人にとって不便な場所があることを感じるとともに、車椅子で移動するときの怖さを実感し、困っている人に対して声を掛けたり手伝ったりすることの大切さや、誰もが過ごしやすい社会づくりの大切さについて気付くことができた。

## ② 高齢者に係わる学習

福祉協議会から装具を借りて高齢者疑似体験を行った。体験を通し、「腰が曲がって痛く、ひじとひざが曲がりにくくて腕や足を動かしにくい。周りを見るときも、見えにくかったし、音も聞き取りにくかった。」と感想をもつ生徒や「お年寄りに対して、気を配ったり、助けたりしていきたい。」と考える生徒がいた。高齢者の方の気持ちを理解することができ、高齢者の方との接し方について考えるとともに、誰もが過ごしやすい社会づくりの大切さについて気付くことができた。

## ③ 視覚障害者に係わる学習

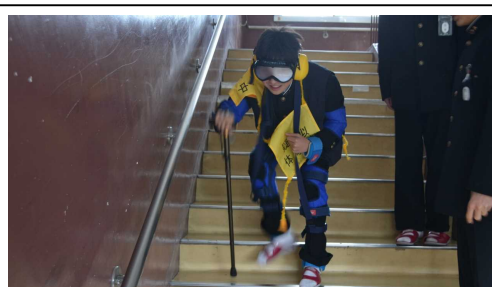
目隠しをし、目が見えない状態で介助者の手を借りながら歩いた。この体験をした生徒からは、「少しの段差障害物がこわいと思った。」や「道や階段がやけに長く感じるし、何があるかわからないから、とても不安だった。」という感想が多く見られた。また、介助の体験をした生徒の感想には、「介助するのは難しいと思ったけど、介助される側の気持ちになることが大切で、相手により分かりやすい言葉で説明をすることが大切だと思った。」といった内容のものが多くあった。

## ④ エネルギーに係わる学習

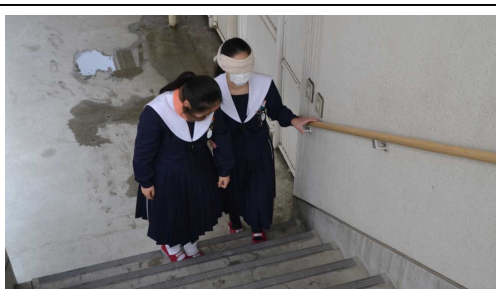
2年生生徒は、環境やエネルギーについて学習するために、名古屋市科学館を見学した。生徒からは、「二酸化炭素地中貯留実験に興味をもちました。気体を地下に保存すること自体が不思議だと思いました。地球温暖化に影響を与えている二酸化炭素を地下に保存する技術の研究が進み、実現されると良いと思いました。」「私たちの生活には、ガスや電気といったエネルギーが必要ですが、太陽光発電みたいな再生可能エネルギーを使うようにするだけでなく、エネルギーの無駄遣いをしないように、使っていない部屋の電気を消したり、電化製品のコンセントを抜いたりすることも大切だと思いました。」という感想をもち、エネルギーや環境に強い関心をもつことができた。



①の写真



②の写真



③の写真



④の写真

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間に位置付けている。福祉に関する学習に力を入れ、計画的に子どもたちが体験をしたり、講演を聞いたりすることで、相手を思いやることの大切さや誰もが過ごしやすい社会をつくることの大切さについて考えることができるようにしている。また、生徒会主催の地域清掃活動を年間計画に位置付け、全校生徒とPTAも協力して実施をしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校努力点にユネスコスクールとして活動する内容を明記し、総合的な学習の基本方針に、主に福祉について学習することを明記している。また、各学年に総合的な学習の担当を決め、担当間や学年内で取り組む内容や時期などを検討できるようにしている。生徒会の企画で全校生徒やPTAで協力して行う地域清掃活動を年間計画に位置付け、環境委員会と連携して取り組めるようにしている。出てきたゴミの回収は、土木事務所に依頼している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動を通して、生きる力を育むことができるかについて学校評価の項目に盛り込み、生徒や保護者アンケートを行うことで評価をしている。「将来の生きる力を育むことに役立っている」と答えた生徒は約8割、保護者は約9割と多くの生徒や保護者が生きる力を育むことに役立っていると捉えている。この結果について、年度末の学校評議員会や学校説明会で報告している。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

どのような活動をし、どのように生徒が成長したのかについて、学校ホームページに載せたり、学校説明会や入学説明会、学教評議員会などで報告をしたりしている。保護者や学校評議員からは、学校の取組に理解をいただき、魅力を感じていただいている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本校との関係が深い地域の社会教育機関等に協力を依頼して講演や体験学習を行った。愛知教育大学主催、中部大学やESDコンソーシアム愛知共催の愛知県ユネスコスクール指導者研修会に参加をした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

愛知教育大学主催、中部大学やESDコンソーシアム愛知共催の愛知県ユネスコスクール指導者研修会に参加し、県外のユネスコスクール先進校の実践活動報告を聞き、情報交換等を行った。本校では、特に他校と交流して実践を進めることは行っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

実際に生徒が体験をしたり、講演を聴いたりすることにより、相手の事を考え、相手に対して自分ができることは何か、地域や社会の問題を見だし、将来に向けての改善点について考えることのできる生徒が増えた。また、生徒が将来、社会に出て活躍をするために、どのような取組を行っていくと良いのかについて考え、計画的に取組を考える職員が増えた。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

ユネスコスクールとしての取組を、学校努力点に明記するとともに、総合的な学習の基本方針の中に、主に福祉について学習することについて明記する。具体的な時期や学習内容については、新年度に入ってから、総合的な学習の担当や各学年内で検討し、調整していく。また、生徒会の企画で全校生徒とPTAが協力して行う地域清掃活動を年間計画に位置付けていく。